

銀髪の時代

「老い」を生きる

リーダー育て介護向上

○○57

変わる専門職

用者と介護職の役に分かれ、背面と耳元から話し掛ける達いや、立ち上がる時に介助するポイントなどを実践。「何

「車いすで食堂に連れて行くのも、利用者にとっては『強制連行』。利用者の目線で向き合うなど、車いすを押す前に必要な10秒がある」。5月に那覇市内であった「介護職員のための接遇研修」。鹿児島県から招かれた専門学校専任教員の中森美恵子さんが、利用者の状態を察知したコミニケーションや丁寧な言葉掛けの大切さを説いた。

40人近い参加者は車いす利用者と介護職の役に分かれ、背面と耳元から話し掛ける達いや、立ち上がる時に介助するポイントなどを実践。「何

受け止められているか参考にできた」「人手不足や多忙だからで済ませない介護を目指す」といった感想が聞かれた。

中森さんは介護職が身体的

な労働だけでなく、悲しみや怒り、不平不満の矢面に立つ「感情労働の代表職」と説明した。「苦手な利用者もあり、ネガティブな感情が起ころる

は当たり前。そんな時にプロ

として自分を律した態度で対応できるよう、支援技術を磨く

べき、ストレスへの対処を身に付けることが重要です」

主催したのは県介護福祉士会が2014年度、実務経験2年以上の介護福祉士を对象に導入した「ファーストステップ研修」は、職場で15人程度をまとめる小規模チームリーダーの養成が目的だ。月1~2回、約8時間の講義に加え、毎回事前・事後の課題があり1年ほどかけて修了する。福井理事は「介護現場に最も必要なのは、限られた現場スタッフを最大限に生かせる管理職やリーダーの存在。それが対症療法に終わらない離職、虐待の防止にもつながる」と確信する。

会。さまざまな人材養成を模索している福井彰雄事務局担当理事は「介護福祉士は資格取得後にスキルアップする仕組みがなく、国家資格を取ることがゴールになってきた」と指摘する。

福井理事は「介護現場に最も必要なのは、限られた現場スタッフを最大限に生かせる管理職やリーダーの存在。それが対症療法に終わらない離職、虐待の防止にもつながる」と確信する。

所でケアマネージャーとして働く桑江貴英さん(43)は1期生。「考えを文章化するなど思考過程を徹底的に鍛えられ、働きながら家庭で課題をこなすのは大変だったが尊厳

生。「考えを文章化するなど

思考過程を徹底的に鍛えられ、働きながら家庭で課題を

こなすのは大変だったが尊厳

生。「考えを文章化するなど